

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	道徳
第1推薦	28 光村
第2推薦	2 東書

(道徳) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを示し、2年生以降、「聞く」「役割演技」「話し合い」等の六つの学習活動を紹介している。道徳授業のオリエンテーションができるように巻頭で短い教材が示されている。 ・発問については、1・2年生は教科書に掲載されていない。3年以上は教材文の後に二つ示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上は教材に入る前のページの全面を使い、問題意識をもたせ、教材の後に問題解決学習の流れを示している。 ・体験的な学習については「出会う・ふれ合う」のマークを使い、目次及び該当ページに示している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判128～200ページ ・教材数 A8～10 B7～9 C9～12 D6～8 ・いじめ問題を題材として直接的に扱う教材と、間接的に扱う教材の二つを、一つのユニットとして組み合わせた「いじめのない世界へ」を設けている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、「これから一年間で学ぶこと」「道徳の学習をすすめるために」「道徳の時間が始まるよ！（第2学年以上）」を示している。巻末には、「学習の記録」「学習のふり返り」「これからはかがやく自分に！」を設け、各教科等における道徳教育と関連するページを設けている。 ・「出会う・ふれ合う」「つながる・広がる」「問題を見つけて考える」「いじめのない世界へ」「情報モラル」のマークやDマーク、キャラクター「こころん」を設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「ちょっとみんなで話し合ってみよう」の中にショートストーリーを例とし、自分の考えをもつ活動を設定し、話し合いの状況を示している。 ・巻末に、1時間の授業ごとに色を一コマ塗ったり学習を振り返って自己評価をマークで描いたりするページを設けている。1年間を振り返ったり、心に残った教材を振り返ってまとめたりするページを設けている。
11 学図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動について考える視点や話し合いの方法を示している。また、別冊「まなび」では、教科書とあわせた使い方や学習活動（話す、聞く、話し合う、役割演技をする。）についての説明がある。 ・発問については、別冊「まなび」に主題ごとに見開き1ページで示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「まなび」において、主題ごとに問題意識をもたせる問いを示している。 ・役割演技の方法を具体的に示し、役割演技を促す発問を示している。また、体験的な活動を促すページを設けている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判118～150ページ（別冊：AB版50～54ページ） ・教材数 A9～10 B7～8 C10～13 D6 ・別冊「まなび」は、内容項目ごとに、複数の教材について、自分の考えや友達の考えを書くようにしてある。 ・いじめの問題について日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、「道徳の学習を始めよう」「学級づくり」を示している。別冊「まなび」には、「まなびの道しるべ」「教科書『まなび』の使い方」を示している。巻末には「ふるさとコラム」を示している。別冊「まなび」では、「まなびのヒント」として、話し合いの仕方等を示している。 ・本冊「きづき」には、「ともにいきる」「情報モラル」「コラム」のマークを設定している。別冊「まなび」には、「こころのパレット」「かんがえよう」「みつめよう・やってみよう」「つなげていこう」のマークやQRコードなどを設定している。

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学習を始めよう」の中に、話し合いの状況を示している。別冊「まなび」の巻末に「まなびのヒント」のページを設け、上手な話し方・聞き方、上手な話し合いのポイントを示している。 ・別冊「まなび」に、学習を振り返って自己評価をマークでかいたり、「まなびの道しるべ」に、心に残った話等を書いたりする欄を設けている。
17 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れ「きづく」「かんがえる」「ふかめる」「つなげる」を示し、「話し合い」「役割演技」についての説明を示している。 ・発問については、冒頭の一つ、教材の終わりに示している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名の下に問題意識をもたせる問いを示している。 ・体験的な学習を取り入れる教材は、目次で「スキル」というマークを示し、役割演技・体験的な学習の例を、「やってみよう」というコーナーにおいて10ヶ所掲載されている。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判134～170ページ ・教材数 A8～12 B6～9 C10～13 D4～8 ・いじめ問題を題材とし直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、「道徳の学習が始まるよ」「道徳ではこんな学習をするよ」を示している。巻末には、「学びの記録」「1年間の道徳の学習を振り返ろう」のページを設けている。第1・2学年には「みにつけよう れいぎ・マナー」を示している。 ・色によって「いじめをなくす」「情報モラル」「生命尊重」を示し、中心的な発問や「スキル」マーク、QRコード、キャラクター「とりどり先生」などを設定している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳ではこんな学習をするよ」の「考える」の中に、「話し合って考えよう」として、話し合いのポイントを示している。 ・巻末に、学習した日付や教材で心に残ったこと等を記述したり、1年間の道徳の学習で振り返ったことを記入したりする振り返りのページを設けている。
38 光村	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年以上においては、学習活動について、考える視点や話し合う方法を合わせて具体的に示している。また、話し合いの仕方、役割演技の仕方についての説明がそれぞれ1ページずつある。 ・発問については、冒頭の教材名の下の一つと教材文の終わりに、三つ示している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを示している。また、問題解決的な学習ができるように「考えよう」のコーナーを設け、学習のめあてや発問を記載している。 ・教材文の後に挿絵とともに役割演技を促す発問を記載している。また、役割演技のやり方について説明している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 B5判変型145～221ページ ・教材数 A8～10 B8～9 C11～12 D5～7 ・様々な内容項目からいじめ問題に結びつく教材を、よびかけとコラムとともに一つのユニットとして設けている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、目次の前に、命をテーマにした詩を掲載している。第2学年以上は、「道徳の時間」「この本で学ぶみなさんへ」を示している。巻末には、人とよりよい関係を築くための付録を示している。第3学年以上は、日本の伝統文化について、第5・6学年は、「あなたへのメッセージ」を示している。 ・「コラム」「考えよう・話し合おう」「つなげよう」などのマークやQRコード、キャラクター「こころん」「きらりん」を設定している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教材の終わりの「考えよう・話し合おう」の中に、教材における話し合う活動を示している。巻頭の「道徳の時間は」の中に、話し合いの具体的な状況を示している。 ・「学習のまとめ」ごとに、区切りのページを設け、「学びの記録」とともに、自分の学びの変化や学んだことが生かされたことを記入する、「まとめ」の欄を設けている。
116 日文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの学び方「きづく」「かんがえる・ふかめる」「みつめる・いかす」を示し、「考える・深める」の場面での学習方法についても説明している。 ・発問については、冒頭の教材名の前と教材文に後ろに二つ記載している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを示している。また、問題解決的な学習を取り入れる教材は、目次においてマークで示している。問題解決的な学習の進め方について、「学習のてびき」として学習のめあてや発問とともに写真入りで説明している。 ・体験的な学習を取り入れる教材は、目次等においてマークで示している。また、「学習の手引き」において、写真を使って役割演技の方法を説明し、学習のめあてとともに発問を示している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判154～190ページ（別冊：AB判42ページ） ・教材数 A8～11 B8～10 C12～14 D5～8 ・別冊「道徳ノート」は教材ごとに、主発問について自分の考えを書くようにしてある。 ・「人との関わり」をテーマに複数の教材や関連するコラムを一つの「いじめ防止」のユニットとして、いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材に、コラム「心のベンチ」を組み合わせて、学期に1回ずつ設けている。

	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、「道徳のとびら」「道徳の学び方」を示している。別冊「道徳ノート」には、道徳ノートの使い方を示している。巻末には、「あすをみつめて」を示している。別冊「道徳ノート」では、「道徳の学習で学んだことを書きましよう」のページを設けている。 ・「学び方マーク」「考えてみよう」「見つめてみよう生かそう」「教科書デジタルコンテンツ」などのマークや、キャラクター「ココロウ」「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」を設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学び方」の「考えを深める」の中に、話合いの具体的な状況を示している。教材の終わりの「学習の手引き」（5年の場合6箇所）の中に、教材における話し合う活動（5年の場合3/6）を示している。 ・別冊「道徳ノート」に、学習を振り返って自己評価をマークで描く欄とともに、巻末に、道徳の学習で学んだこと等を記入する、振り返りのページを設けている。
208 光文	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れ「といをみつける」「かんがえる」「まとめる」を示し、学んだことを生活に生かす流れについても説明している。また、教科書の使い方や道徳ノートの例を示している。 ・発問については、冒頭の教材名の横に一つ、教材文の下段に二つと終わりに二つしている。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを記載している。 ・教材絵の後、「あいさつのれんしゅうをしてみましょう」という言葉を示し、体験的な活動を促している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 A4判変型158～194ページ ・教材数 A7～12 B8～12 C12～14 D6～9 ・いじめの防止について、いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。コラム「みんな仲よし楽しい学校」を設けている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、「さあ、道徳の学習が始まります」「道徳の時間は、こんな時間です」「この本の使い方」などを示している。巻末には「学びの足あと」を設けている。 ・「命がかがやかせる」「情報社会を生きる」「情報モラル」「ことばのたからもの」などのマークや、キャラクター「みらいさん」「ゆたかさん」「トリー」「わんだ先生」を設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の時間は、こんな時間です」の中の、学習の手順に、話し合う活動を提示し、話合いのポイントを示している。 ・巻末に、学習した目付け、教材番号、授業後の心の動き、学びを記録する、振り返りの欄を設けている。また、学期末や年度末に、道徳で学んだことを振り返って記入する「まとめ」の欄を設けている。
224 学研	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動について、「話し合ったり演技したり 書いたりして考えるよ。」とまとめて示している。 ・発問については、教材文の終わりに二つ記載している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後に「ふかめよう」のコーナーを設け、問題解決的な学習の流れを示しているものがある。教材文の後の「やってみよう」のコーナーで役割演技の方法についての説明が具体的な発問とともに示されている。 ・体験的な活動については、友達への声かけを体験することで友情信頼についての考えを深める活動が紹介されている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 A4判138～170ページ ・教材数 A9～12 B8～9 C9～11 D6～8 ・いじめ防止をテーマとして直接的に扱う教材と、間接的に扱う教材を選定している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、目次の前に詩を掲載し、「道徳の学習が始まるよ」「自分のことを書いてみよう」を設けている。巻末には「心の宝物」を設けている。 ・「いのち」「深めよう」「広げよう」などのマークやQRコード、キャラクター「明日香」「未来」を設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の、学習の手順「考える」の中に、話し合う活動を提示し、話合いのポイントを示している。 ・巻末に、道徳の学習を通して、心に増えた宝物や心に残った言葉・話を記入し、1年間を振り返るページを設けている。
232 廣あかつき	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達の発表を聞きましよう」「自分を見つめましよう」など、道徳の時間の学習活動を文章で示している。（1学年にはなし） ・発問については、教材文の終わりに二つ記載している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後の「考えよう、深めよう」のコーナーに、問題解決的な学習や役割演技に活用できる発問を掲載してあるものがある。

観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判118～170ページ (別冊：AB判44～56ページ) ・教材数 A10～11 B8～9 C10～11 D5～6 ・別冊「道徳ノート」は、内容項目ごとに解説があり、自分の考え等を書くようにしてある。 ・低・中学年では「仲間はずれ」「友達どうしのトラブル」等、いじめを間接的に扱った教材を選定し、高学年では、いじめを直接的に扱った教材も合わせて選定している。
観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭は詩を1ページで掲載している。第1学年は「どうとくのじかんは」を、第2学年以上は「道徳の時間はこんな時間」を示し、「今の自分を見つめて」のページを設けている。巻末には、第3学年以上に、教材と関連して学びを深める特集のページを設けている。別冊「道徳ノート」では、折り込みで「心のしおり」を設けている。 ・「学習の道すじ」「学習を広げる」「インターネット」などのマークを設定している。 ・別冊「道徳ノート」では「鉛筆マーク」を設定している。
観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の時間はこんな時間」の中に、学習全体でねらいとする活動や内容を紹介し、話合いの意義やポイントを簡潔に示している。 ・別冊「道徳ノート」に、考えたり振り返ったりしたことを書く欄や、巻末に、心に残っている授業等について記録するページを設けている。